

姫路市立水族館 だより

さかな



たち

NEWSLETTER OF
HIMEJI CITY AQUARIUM

Mar. 2022 No.77



トゲウミエラに潜むウミエラカニダマシのペア

〈目 次〉

近年確認された播磨灘の珍客たち	増田 修 …………… 2
珍魚発見！ 市民の方から情報提供がありました！	脇本久義 …………… 5
播磨灘のやわらかサンゴたち	三木 徹 …………… 6
浜からのたより マハタ初展示！	垣ころ …………… 8
館誌抄 令和3(2021)年10月～令和4(2022)年3月	…………… 8

近年確認された播磨灘の珍客たち

姫路市の南に広がる播磨灘は、東西に長い瀬戸内海東部に位置し、本州と四国、淡路島に囲まれた内海環境の海域です。平均水深は26mと浅く、暖かい太平洋の海水は淡路島南部に位置する海峡幅が1.3kmの鳴門海峡を通じて太平洋（紀淡海峡）と行き来するのみです。したがって、海水温は気温の影響を受けやすく、冬場は7～9℃ほどに冷え込むので、低水温が苦手な生きものたちは、深場に移動するか、播磨灘から出ていってしまいます。

近年の温暖化の影響もあってか、夏はもちろん、冬の播磨灘の最低海水温も1～2度高く測定されるようになりました。このように冬場の水温上昇に加え、下水処理が行き届き太平洋側のように透明度の高いきれいな播磨灘になってきたことは、冬の厳寒期に姿を消していたブリやサワラが居つくようになったり、過去にもまして太平洋側の魚の確認例が多くなる状況を招いています。

播磨灘での新記録あるいは記録が著しく乏しい種類については、以前から本誌でも紹介してきましたが、本号では、2019年末～2022年初頭にかけて漁業者から水族館に提供された播磨灘ではめったに見られない、あるいはちょっと変わった生き物たちをピックアップして紹介します。



出典：<http://landsat8.geogrid.org/> より

◎ 地元漁業者から提供された 太平洋からやってきた魚たち

カタボシイワシ（サツパ科）

セリ前に仕分けられていたマイワシに混ざっていました。全長25cmほどになり、体側の上3分の1は青みがかった暗色をし、エラブタの上端に三角形の黒斑があります。九州～オーストラリア北部の西太平洋の暖海に分布するとされますが、今回、当日の水温が11℃の厳寒期に混獲されたのは極めて異例なことと思われます。

播磨灘では新記録種であり、過去には大阪湾南部や神戸市沖の記録があります。



HCA-D-0581（以下、姫路市立水族館収蔵標本No.）、
2020年1月31日、
家島諸島男鹿島、小型定置網漁、中村庄助氏（家島漁協）

キハツク（ハタ科）

全長20cmほどになり、黄色と黒帯のコントラストが美しい魚です。幼魚の時は背ビレの先端が糸状に伸びる優雅な姿をしており、水族館でも時折展示されています。

本州中部以南の太平洋側～インド・西太平洋の温暖な岩礁帯やサンゴ礁域に生息します。

太平洋岸では定置網や釣りで時折混獲されますが、播磨灘では初めて記録されました。



HCA-D-0583,
2020年9月17日、
家島諸島松島東岸、カゴ網漁、谷端健二氏（家島漁協）



飼育中、
2021年6月12日、
家島諸島松島東岸、カゴ網漁、谷端健二氏（家島漁協）

2021年2月14日（家島諸島鞍掛島、カゴ網漁、大沢薫生氏（家島漁協））に混獲されました。大阪湾では60年ほど前に南部での記録があります。

ミギマキ（タカノハダイ科）

全長35cmになり、タカノハダイに似ていますが斜めの帯がより斜めで太く、黒色をしています。尾ビレに白斑はなく、下半分は黒色に上半分は黄白色に染め分けられます。分布や生態はタカノハダイに類似します。

タカノハダイと共に瀬戸内海中・東部、大阪湾での記録は見当たらず、播磨灘では初めての記録です。

タカノハダイ（タカノハダイ科）

全長45cmになり、茶褐色の斜めの帯が走り、尾ビレに白斑があります。本州中部以南の太平洋岸、東シナ海、日本海南西部の浅い岩礁帯やその周辺には普通に生息しています。定置網や刺し網で混獲され、グレ（メジナやクロメジナ）釣りの外道としても知られています。肉は臭みが強く美味しくないため、流通しないようです。

黒潮の影響の強い瀬戸内海西部の周防灘などでは珍しくなく、播磨灘でも鳴門海峡付近には生息していると考えられます。播磨灘北部では、2021年と2022



HCA-D588,
2021年12月15日、
家島諸島松島東岸、カゴ網漁、谷端健二氏（家島漁協）



HCA-J163,
2022年1月15日、
家島諸島松島東岸、カゴ網漁、谷端健二氏（家島漁協）

イラ（ベラ科）

全長45cmほどになり、太短い体形をしたベラの仲間です。成魚では桃橙色をし、体側に黒い斜走帯と直後に白く幅広い斜走帯があります。本州中部～朝鮮半島南部・東シナ海・台湾にかけて分布し、浅海の岩礁帯を中心に生息します。身が柔らかく旨味が少ないので、めったに流通しない魚です。

播磨灘では1973年に高砂市沖で幼魚（HCA-F0077）が獲れた他は、姫路市内の鮮魚店で販売されていた家島諸島産とされる写真データがあるのみです。

アミメウマヅラ（カワハギ科）

全長20cmほどになり、播磨灘では普通に漁獲されるナガハゲと呼ばれるウマヅラハギに似た魚ですが、体形はより太短く体表面にはぼやけた網目模様があります。

和歌山や四国沿岸では時折獲れますが、近郊では2003年に大阪湾の関西空港付近での記録があるのみで、播磨灘では初めての記録です。

飼育中、
2021年8月21日、
家島諸島松島東岸、カゴ網漁、谷端健二氏（家島漁協）



ハウセキキントキ（キントキダイ科）

全長45cmになり、濃い赤色に不規則な淡色のまだら様の小斑が全身に散りばめられています。本種よりも体色が淡い近似種のキントキダイは、播磨灘でも時折、混獲されています。

太平洋側の沿岸から沖合に生息しており、定置網や釣りで漁獲されています。瀬戸内海では黒潮の影響の大きい南西部には生息していると思われます。播磨灘では、2020年11月にカゴ網で混獲された2個体が坊勢漁業協同組合の職員によって撮影されています。



写真資料, 2020年11月9日,
家島諸島（詳細不詳）,
カゴ網漁, 写真提供：荒木隆希氏（坊勢漁協）



キントキダイ,
2020年5月8日,
家島諸島太島, 小型定置網, 大沢薫生氏（家島漁協）



HCA-N-5913
2020年5月8日,
家島諸島西島北部, カゴ網漁, 谷端秀作氏（家島漁協）

クエ（ハタ科）

和歌山県から南西諸島の温暖な沿岸や沖合の岩礁帯に生息する全長1.2mほどになる大型種です。

瀬戸内海南西部では漁場となっていますが、中・東部での記録は見当たらず、1962年に大坂湾南部の記録がある程度です。播磨灘では、今回獲れた全長約45cmの若魚が初の記録と思われます。

家島諸島西島の海上釣り堀では、釣魚としてクエとタマカイなどを掛け合わせた雑種が生け簀内に放たれています。ここから逃出したものが再捕獲された可能性もありますが、釣り用の魚体サイズよりは

るかに小型であること、雑種特有の目立った白斑がないことから、可能性は低いものと考えられます。

*同じくハタ科のマハタも混獲されており、8ページの「浜からのたより」に記載しています。

モヨウフグ（フグ科）

全長80cmほどになり、体全的に黒い微小点が密にあり、胸ビレ基部には黒斑がかたまっています。

本州中部以南からインド・太平洋の熱帯域に分布し、記録は見当たりませんが瀬戸内海では南西部に分布していると思われます。播磨灘では初の記録となります。



HCA-N-5909
2019年11月7日,
家島諸島家島北上シズモ, カゴ網漁, 新井 淳氏（家島漁協）



HCA-N-5919,
2020年10月31日,
家島諸島男鹿島東岸, 小型定置網漁, 中村庄助氏（家島漁協）

ワモンフグ（フグ科）

全長45cmほどになり、淡い緑褐色の地色をし、頭部から腹部にかけて白縞があり、体側と尾ビレは白斑が散在します。

本州中部以南からインド・太平洋の熱帯域の浅海に分布し、記録は見当たりませんが瀬戸内海南西部には分布していると思われます。播磨灘では新記録となります。
(増田 修)

2021年は珍しい生き物の搬入が相次いだ年でしたが、市民の方からも珍しい魚の情報をいただきました。情報を下さったのは、姫路市内在住の高見香里さんと晃成くん。ていねいなお手紙とともに、魚の写真とスケッチを送ってくださいました。

手紙の内容は、「名前の判らない魚が家島の地引網体験で採れ、調べてみたら珍しい魚だったので連絡した」とのこと。同封されていた写真を見ると、

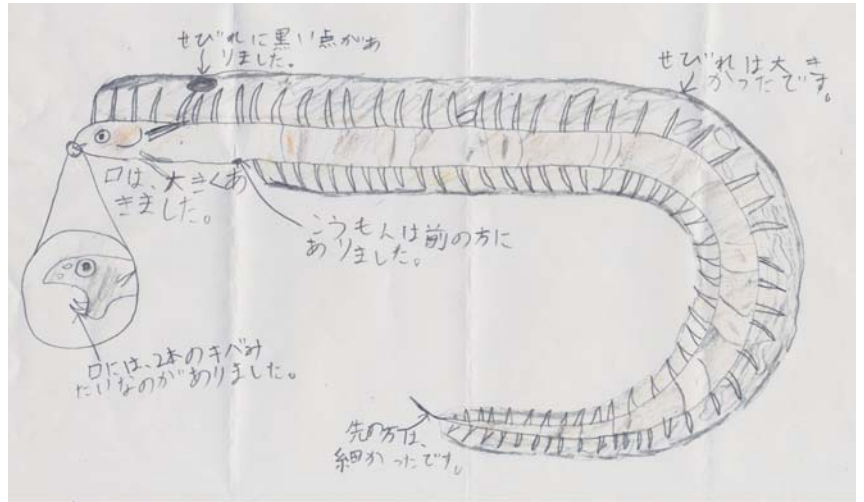


図1 晃成くんの書いたスケッチ



写真1 送られてきたウナギギンポの写真



写真2. 頭部のアップ. 背ビレに黒斑がある

確かに姫路近海では見かけない変な魚が写っています(写真1)。

そこで、こちらでも調べてみたところ、「ウナギギンポ」という魚であることが判りました。大阪湾では記録がありますが、いずれにしろ瀬戸内海では目にすることが非常に少ない、貴重な記録です。

ウナギギンポの特徴は、ウナギのように細長い体としま模様、そして背ビレ前方に黒斑があることです(写真2)。また、丸い頭と下アゴに生えた2本の鋭い犬歯も特徴的です。



写真3. 情報を送ってくれた高見晃成くん

晃成くんの書いてくれたスケッチはとても詳細で、そのような特徴が余すことなく記録されていました(図1)。すばらしい観察力だと思います。晃成くん、スゴイ情報をありがとう！

姫路市立水族館では、このような市民の方からの情報提供も大歓迎です。皆さんからの情報が、貴重な記録になるかもしれません。もし珍しそうな魚やおもしろい生きものを見かけたら、ぜひ水族館まで情報をお寄せください。お礼に金一封……は、出ませんけどね(笑)。

(脇本久義)

播磨灘のやわらかサンゴたち

播磨灘のサンゴと聞けば、そんなものいるのかなと違和感を覚えられる方が多いと思います。しかし、サンゴの仲間は種類が多く、形や体の硬さも一様ではありません。今回ご紹介するのは硬い石灰質のサンゴではなく、皮状あるいは多肉質の体を持つサンゴの仲間たちです。正式な分類群名ではないですが、本文では表題のように、“やわらかサンゴたち”と呼ばせてもらいます。

やわらかサンゴたちには何かに固着して動かない種類（ウミトサカ類）と、伸び縮みして動ける種類（ウミエラ類）がいます。当館は播磨灘の生きものを集める際に漁業者の方に依頼して集めることが多いのですが、その際に使われる漁具の一つが底曳き網^{そこび}です。底曳き網は海底に生息する底生魚やエビ・カニ類などを漁獲しますが、それらと共に揚がってくるのがウミエラ類なのです。ウミエラ類は大きく分けると、棒状のウミサボテンの仲間と植物のシダの葉のように左右に羽根状の葉状体を持つウミエラの仲間に分かれます。それでは最近の5か年で水族館に持ち込まれたやわらかサンゴの5種類について紹介しましょう。

各写真では全体が判りやすいように横に寝かせています。各写真の左側が冠状部^{かんじょう}（上側）で右側が柄部^{へい}（下側）です。昼間は体を海底の砂場に潜り込ませていますが、夜になると冠状部を立ち上げて膨らませ、ゆらゆらさせるのです。

最初に紹介するのがウミサボテンです。ここ5年間に20回の搬入で324個体の記録があり、播磨灘でもっとも普通にみられる種類です。写真では2体を上下に並べていますが、縮んだ時と伸びた時ではこれぐらい大きさが異なります。下の膨張した体に見られる多数の小さな突起の一つ一つがポリプと呼ばれる個体です。つまり一個の体に見えるのは多数のポリプの集まりで、これを群体と呼びます。実はこのやわらかサンゴたちは、ほとんどが夜光生物と言われています。明るいと全くわかりませんが、真っ暗な夜中に幽霊のように青白く光っているのを見たことがあります。



ウミサボテン 上：収縮個体、下：膨張個体

シロバナヒメウミサボテンは2019年と2021年の2回の搬入で10個体記録されており、最近、播磨灘で見られるようになった種類です。体長は10cm前後になり、ウミサボテンよりずいぶん小さく、また体の中につまようじのような骨軸があります。冠状部の表面



シロバナヒメウミサボテン



色違いのトゲウミエラ2体

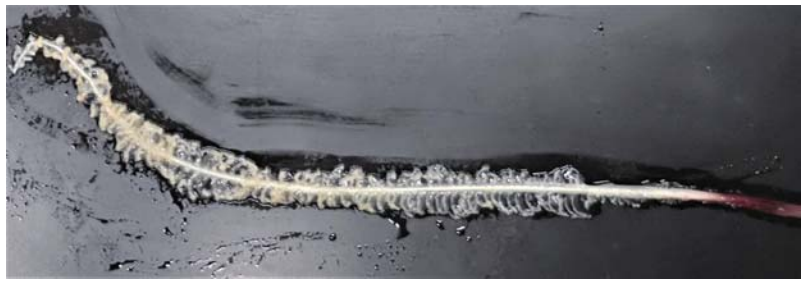
のポリプの数はウミサボテンに比べてはるかに少ないのですが、ポリプが触手を広げた時には小さな白い花が咲いているように見えます。

ウミサボテンの名前の付く種類は、写真のとおり形がまさにサボテンのようなのですが、ウミエラの名前がつく種類は体の左右に葉状片を何段も重ねた姿をしています。見方によっては魚のエラにも見えるので、ウミエラと言う名前がついたのでしょう。

トゲウミエラは大きいものになると30 cmを超え、ウミエラ類の中でも大型になります。この種類も大きく目立つのか、採れる数自体は少ないものの、過去5年間で6回10個体が搬入されています。葉っぱに見える部分に多数のポリプと針のようなトゲが多数あることが特徴です。本種には左右の皮弁のすき間にゼブラ模様のウミエラカニダマシが隠れていることがあります（表紙写真）。

残りの2種類はヤナギウミエラとホソウミエラの仲間です。過去5年間に細いウミエラとして5件48個体の搬入がありました。これらは正確には種類がわかっていません。今回、記事にするにあたり、標本の残っている細いウミエラを調べたところ、タイプの違う種類が2種あり、一つがヤナギウミエラ、もう一つがホソウミエラの仲間であろうと推察されました。

ヤナギウミエラの特徴は左右にある葉状片の縁辺にあるポリプが数個の塊状となって200個近くもあるこ



ホソウミエラの仲間（上）とそのポリプ（下）

とです。縮んだ葉状片のポリプは数が多いので、ブロッコリーのように見えます。また、葉状片は肌色からオレンジ色に近いものまで多彩な色合いをしており、別種のように見えることもあります。この種類は潮通しの良い海底に生息しているようです。

2021年に初めて採集されたのが写真のホソウミエラの仲間です。透明感があり、細長い骨軸が透けて見えます。ポリプは葉状片に20～30個あり、縁に沿って1列に並んでいます（写真下）。この種類は場所によって大量発生しているようで、底曳き網の漁網に大量に絡まるなどの漁業被害に至っていると聞きます。

これらのやわらかサングたちは食用としては利用価値がありませんが、形や生態が不思議で大変面白い面もあるので水族館で何とか飼育展示したいものです。

（三木 徹）



ヤナギウミエラ（上）とそのポリプ（下）



浜からのたより 「マハタ初展示！」

2020年10月に姫路市家島諸島の底曳き網漁において「見たことがない魚が網に入ったよ！」との連絡がありました。当館の職員が確認してみると5cmほどのマハタの赤ちゃんでした。

体に黒と白の縞模様があるのが特徴で、その模様が黒白に染め分けられた旗のように見えることから「ハタシロ（ハタジロ）」という名で呼ぶ地域があります。

北海道南部より南に分布しており、瀬戸内海西部には生息していますが、これまで播磨灘で獲れたという記録はありませんでした。



外洋を好む魚であり、内海である播磨灘にあまり入って来ないことなどが要因かもしれません。

ちなみにマハタは知る人ぞ知る高級魚で、食した飼育員によると「美味しいぞ〜！」とのこと。私は食べたことがないので一度は味わってみたいものです。

さて、今回紹介したマハタは本館1階で展示しています。今では20cmほどに育ち、とても人懐っこく好奇心旺盛で、水槽に近づくと寄ってきてくれますよ。ぜひご覧くださいね。

(垣ころ)

館誌抄 令和3(2021)年10月～令和4(2022)年3月

令和3(2021)年

- 10/3 サポーター対象干潟の観察会(たつの市)
- 10/4 市内水族採集
- 10/5・21 市内水生昆虫採集
- 10/10 タートルバンク冬越し説明会
- 10/14 市内水生昆虫採集
- 10/18 ナゴヤダルマガエル生息状況調査(赤穂市)
- 10/20 水族採集(赤穂市)
- 10/24 市内ため池調査
- 10/28 ナゴヤダルマガエル生息状況調査(赤穂市)
- 11/4 市内アマモ場調査、採集
- 11/7 お魚博士検定
- 11/11 ヒトデ採集(相生市)
- 11/13 ため池かいぼり調査(加古川市)
- 11/14 市内沿岸水族採集
- 11/18 河川水族採集(明石市)
- 11/25 ため池調査(加東市、加古川市)
- 12/1 キッズコーナー(クリスマス限定ぬりえ)開設
- 12/2 市内ため池調査
- 12/3 市内ため池採水、調査
- 12/3 市内水生昆虫採集

- 12/9 水生昆虫採集(宍粟市)
- 12/10 市内ため池採水、水族調査
- 12/30 市内サワガニ採集

令和4(2022)年

- 1/6・18 市内河川水族採集
- 1/20 市内ため池調査
- 1/28 河川水路水族採集(たつの市)
- 1/29～3/27 企画展「やっぱり危なかったん！危険生物展」
- 2/10 市内アマモ場調査、採集
- 2/14 ヒトデ採集(相生市)
- 3/3・14・24 市内カエル産卵調査
- 3/13 缶バッジ工作教室
- 3/17 ヒトデ採集(相生市)・市内アメンボ採集

姫路市立水族館だより 山のうへの魚たちは

通巻第77号 令和4(2022)年3月31日発行
 編集 発行 姫路市立水族館 籙 善之
 〒670-0971 姫路市西延末440(手柄山中央公園)
 Tel.079(297)0321 Fax.079(297)3970
 E-mail: aqua@city.himeji.lg.jp
 URL: http://www.city.himeji.lg.jp/aqua/